

## 長崎市とセントポール市の姉妹都市交流

### —初の日米姉妹都市交流—

山内 圭

#### 姉妹都市交流

A Report on the Sister City Relationship between Nagasaki City and Saint Paul City  
—The Pioneer Sister City Relationship between Japan and the United States of America—

Kiyoshi YAMAUCHI

(2004年11月10日受理)

長崎市とセントポール市との姉妹都市交流は1955年に始まる最初の日米姉妹都市交流であり、間もなく2005年で50周年を迎える。本稿では、この50年間どのような姉妹都市交流が行われてきたかを、主に長崎市における、インタビュー、訪問、資料収集から概観し、今後の展望について述べる。

#### はじめに

現在、日本の自治体と外国の自治体の姉妹都市提携数は、財団法人自治体国際化協会のホームページによると<sup>1)</sup> 2004年7月1日現在で、都道府県関係のもの120件、市区関係のもの927件、町村関係のもの478件で計1,525件ある。その中で、相手国として一番多いのがアメリカ合衆国で、その数は441件に達している。

この数多き日本の自治体と外国の自治体との姉妹都市交流の第一号となったのは、長崎市とアメリカ合衆国ミネソタ州セントポール市とのものであり、1955年12月7日に締結された。この姉妹都市交流は第2次世界大戦のわずか10年後から始まり、2005年に50周年を迎える。筆者が日米姉妹都市交流、そして日本の自治体と海外の自治体との姉妹都市交流を調査していく上で、日本でもっとも歴史の古い長崎市とセントポール市との交流について調べておくことは、極めて大切なことだと考えられる。

#### 姉妹都市提携のきっかけ

既に50年近くが経つ同姉妹都市提携であるが、そのきっかけについては諸説あるようである。『長崎の姉妹都市交流30年の歩み』によれば、「1955年5月下旬（昭和30年）の（ウィリアム・G・）ヒューズ（William G. Hughes）氏の斡旋を受けて、セントポールと長崎がそれぞれ候補に選ばれ、国連事務局から双方へ勧誘状が送られて両市がこれを承諾した<sup>2)</sup>」とのことである。しかし、セントポール市では鉄道王ジェームス・J・ヒル（James J. Hill）の孫にあたるルイス・W・ヒル, Jr.（Louis W. Hill, Jr.）氏が、アイゼンハワー大統領と共に提携に尽力したと考えられているようである。また、カトリック教徒の多いセントポール市の市民が、原爆投下により無残な残骸を残すこととなった長崎市の浦上天主堂の残骸撤去と再建を願う気持ちの中で交流が生まれていったという説もある<sup>3)</sup>。

いずれにせよ、これらの動きが相俟って、セントポール側からの働きかけに、長崎市が応じ、提

携が行なわれたと考えてよさそうである。1955年9月4日の『長崎日日新聞』によると「日本国連協会の仲介で、長崎市が全国各都市にさきがけアメリカ・ミネソタ州セントポール市と同族都市として縁組を結ぶことに決つた。セントポール市では長崎市と文化交流を図る為さきに日本国連協会を通じ長崎市に対し同族関係（縁組）を結びたい旨申入れていたが、田川長崎市長の承諾もあり、いよいよ十月初めセントポール市で縁結びの式典が行なわれることになつた」と書かれている。同年10月1日付けの同紙によれば「田川市長は」（九月）廿九日セントポール市長から近く公式の招待状を発送する旨の電報がついた"ことをあきらかに"し、「田川長崎市長の渡米問題はその後行悩み状態にあつたが長崎市議会では九月定例会最終日の卅日本会議休憩中に全員協議会を開いて協議した結果田川市長のアメリカミネソタ州セントポール市訪問を全会一致で承認した」とある。ところがいかなる事情だったかは不明であるが、田川務市長のセントポール市訪問は翌1956年の8月から9月に実施された。

セントポール市議会では、長崎市と都市提携を認める議決を1955年12月7日付けで行なっている。この12月7日という日付は、1941年に日本軍が真珠湾攻撃を行なったアメリカ本土での日付である。なお、後掲する議決書にあるように、当時は「都市提携」（town affiliation）という語句が使用されている。両市の関係を表わす中で「姉妹都市」（sister city）という表現が使われるようになったのは、しばらく後になってからのようである。

#### 姉妹都市協定に関わるセントポール市議会議決書

多くの後の姉妹都市協定では、両方の国の言語で協定書を作成しているが、セントポール市と長崎市との姉妹都市協定では、そのような協定書はない。本協定では、姉妹都市協定に関わるセントポール市議会の議決書をもって、それに充てている。

セントポール市議会議決書<sup>4)</sup>

Original to City Clerk

CITY OF ST. PAUL

OFFICE OF THE CITY CLERK

COUNCIL RESOLUTION-GENERAL FORM

COUNCIL FILE NO. 176014

Presented by Mayor Dillon

Date December, 7, 1955

WHEREAS We, the City of Council of Saint Paul, Minnesota, want to do our share to promote international peace and understanding between all people, and

WHEREAS the citizens of Saint Paul have always shown an interest and have been leaders in the promotion of international cultural understanding and good will, and

WHEREAS this town affiliation is a cultural tie between these two cities and provides a vehicle by which two-way correspondence is possible, and

WHEREAS this City Council believes that a town affiliation is the finest way to promote international understanding at the community level, and

WHEREAS this affiliation will serve as a model for other affiliation between cities of Asia and cities of the United States, since it is the first such affiliation of this type, and

WHEREAS the City of Saint Paul expresses a great interest in the Nagasaki International Cultural Center which the Japanese Government has materialized in order to promote international cultural relations and mutual help for a lasting understanding between the people of different nations, and

WHEREAS we look forward to the visit of the Mayor of the Japanese City of Nagasaki, the Honorable Tsutomu Tagawa,

NOW, THEREFORE: BE IT RESOLVED that the City Council of the City of Saint Paul, Minnesota, does hereby give official recognition to this town affiliation on this seventh day of December in the Year of Our Lord Nineteen Hundred and Fifty Five.

COUNCILMEN Adapted by the Council Dec. 7, 1955

Yeas

Gibbons

## 長崎市とセントポール市の姉妹都市交流

Halvorson  
Holland  
Marzitelli  
Mortinson  
Peterson  
Mr. President, Dillon

Nays

ALL In Favor

None Against

Approved Dec. 7, 1955

Signed

Mayor

日本語訳

議会綴176014号

セントポール市

市書記局

議会決議一般書式

デロン市長提出 1955年12月7日

われわれミネソタ州セントポールの市議会はすべての国民間の国際平和と理解を増進するためにわれわれの役割を遂行したいと思う、セントポールの市民は常に国際的な文化的理解並びに親善の増進に関心を示し且つその指導者である。

此の都市提携はこれら両都市間の文化的帯常であり、且つ相互応答を可能ならしめる媒介物となる、本市議会は、都市提携は国際理解を都市水準に於て増進する最善の方法であると信ずる、此度の都市提携は、この形のこのような都市提携の最初のものであるから、アジアの諸都市と合衆国の諸都市間の他の都市提携のモデルとして役立つと思う。

セントポール市は日本政府が諸国民間の国際的文化関係並びに恒久的理解に対する相互援助を増進するために具現した長崎国際文化センターに多大の関心を表明する、われわれは日本の都市長崎の市長田川務閣下の来訪を期待する。そこで、ミネソタ州セントポール市の市議会は本日キリスト紀元1955年12月7日に此の都市提携に対してここに公式の承認を与えるものであることを只今議決する。

1955年12月7日議会採決

1955年12月7日可決

市長 ジョセフ・E・デロン (署名)

議員 可

ギボンズ

ハルバースン

ホーランド

マーチテリー

モーティンソン

ピータースン

議長

デロン

否

ナシ

全員賛成

反対ナシ

セントポール市 公印

先述のように、この議決書にはまだ"sister city" (姉妹都市) の表現はない。その代わりに"town affiliation" (都市提携) という表現が使われている。また、この提携の目的の一つに「アジアの諸都市と合衆国の諸都市間の他の都市提携へのモデルとして役立つ」ことが挙げられていることは注目すべきことである。

### 姉妹都市交流担当部局

かつて、長崎市の国際関係の担当窓口は、秘書課渉外係であったが、1980年の福州市との友好都市提携の計画が進行する段階で、経済交流を発展させたいとの福州市側の強い要望で、友好都市提携書と同時に両市に経済交流の窓口の設置に関する覚え書が交わされた。その結果、当時商工観光課で貿易を所管していた係と秘書課渉外係を併せ、1980年1月1日に新しく商工観光部国際課が設置され、貿易振興係と国際協力係の2係が置かれた。その後1991年8月の機構改革で貿易振興係が元の商工課に戻され、教育委員会から文化振興係が移管され、今度は企画部の中に文化振興係と国際交流係からなる文化国際課が設置された。長崎市側では、このような担当部署の変遷がありながらも、

主に市役所が交流の窓口となっていたようである。それに対してセントポール側では、初めから市民ボランティアの委員会が活動主体となり交流を進めてきた。日本社会ではこれまでは、ボランティアがあまり身についていなかったため、官が主導し、一部のボランティア市民を巻き込む形で交流が進められてきた。

ところが1999年10月に民間レベルの交流の推進を目指して、長崎・セントポール姉妹都市委員会が発足した。それ以降、行政が一方的に主導する型の交流ではなく、官民一体の、あるいは民間主導の複線交流が展開しているようである。長崎・セントポール姉妹都市委員会発足の翌年の2000年、姉妹都市提携45周年の行事では、同姉妹都市委員会も大きな役割を演じた。また、提携50周年となる2005年は、「長崎・セントポール年」と名づけられ、民間主導で、行政が公的支援を行なう形で、50周年を祝う準備が進んでいる。

長崎市にはセントポールのほかに、ブラジルのサントス、ポルトガルのポルト、オランダのミデルブルク、中国の福州と計5つの姉妹友好都市があるが、姉妹都市委員会が設立され、民間が主導になって交流を続けているのはセントポールとのみである。

## 交流内容

### 親善交流団

本姉妹都市提携は日米間の渡航が容易でなかった1955年に始まったため、親善交流団を定期的に派遣することは行われていない。さまざまな機会がある度ごとに相互の訪問を行なっている。また渡航が比較的難しかったことから、提携10周年、20周年、25周年には、それぞれ国際記念通話が行なわれている。そして、提携20周年の1975年からはロータリークラブにより交換留学生事業が始められ、毎年それぞれ1名ずつの高校生を1年間お互いに派遣留学させている。

### 児童・生徒・学生の交流

小学校の交流としては、市立橋小学校がセントポールのマグネット小学校<sup>5)</sup>と絵画交換や文通交

流を行っている。

高校生の交流としては、先述のようにロータリークラブによる毎年1名ずつの高校生の相互派遣制度がある。この事業は長崎ロータリークラブとセントポールロータリークラブの協力で実現したものである。その目的は「姉妹都市の活動を若い世代にまで広げ、両市の学生が相手都市の学校で勉強しながら、市民との交流を通じて両市の相互理解の促進を図る」<sup>6)</sup>ということである。派遣された高校生はそれぞれ3ヶ月ずつ計4軒の家庭にホームステイをして1年間互いの町に滞在する。これは、姉妹都市交流を継続して行っていくためには必要なことで、どの年代にも、交流に関わり将来交流の中心となっていく人物を育てていくことになる。また、1年に4軒ずつ、交流に関わる家庭を増やしていくことで、交流の裾野の拡大も図ることができる。

本交流で第14回セントポール交換留学生として1988 - 1989年に長崎市に滞在したクリス・ティアニー (Chris Tierney) 氏は、その滞りが機縁で長崎市の女性と1999年12月に結婚し、現在長崎市内でChris' Pizza Americanaというピザ屋を3店経営している (写真1は西山店)。ティアニー氏は2003年11月に放送されたテレビ東京「TVチャンピオン ピザ職人選手権」において準優勝したほどの腕前のピザ職人で、店内で提供するピザ用の肉やトウモロコシ、そしてビールは、ミネソタ州からも取り



写真1

寄せ、経済交流も行っている。西山店にティアニー氏を訪ね、お話を伺ったが、セントポール市からの訪問者があれば、できるだけ関わるようにしているとのことであった。また、筆者が訪問した際、店内には地元の高校生などの客も多く、高校生相手に気さくに英語と日本語で話しかけ、草の根交流の拡大に役立っている様子がよくわかった。このような姉妹都市間での国際結婚例は、長年の当姉妹都市交流がうまく進んでいることを象徴的に表わしていることだと思われる。

大学生の交流としては、純心短期大学（現・長崎純心大学短期大学部）では1983年3月セントポールのセントキャサリン大学のマクナミー学長が長崎を訪問して以来、交流が始まり、姉妹校として語学研修等でセントキャサリン大学に学生の派遣などを行なっている。だが、現在は、長崎純心大学の12校の姉妹校の一つとなり、交流は以前ほど活発ではないようである。また、活水女子大学がセントポールのハムリン大学と姉妹校となっている。

#### 芸術交流

まずは、姉妹都市関係を結んだ翌年の1956年2月、セントポール市のディロン市長から、親善の意を表して、長崎市の田川市長に、「インディアンの平和の番人」像が送られ、ミネソタ大学教授マイロ・J・ピーターソン博士によってもたらされた。この像について、1956年2月4日付けの『長崎日日新聞』は、次のように伝えている。

この像の正式の名前は「インディアンの平和の番人」とよばれ、高さ二十五センチのブロンズ製で、長い煙草のパイプを手にして平和のいのりをささげるインディアンの酋長（原文のママ、以下同じ）を、下から五人のインディアンが支えているという変った図柄で、台には「この像を親善のシンボルとして尊敬する長崎市長田川務氏にささぐセントポール市長ジョセフ・E・デロン」と刻まれている五人のインディアンはインディアンの五つの種族を示し、また酋長が手に持つパイプはインディアンが平和の誓いを結ぶ時、一つのパイプで煙草をのみ合う習慣をあらわしたもの。ピーターソン博

士の話によるとこの像の実物はセントポール市役所のホールの中にあり高さ約六十尺もある大理石像で十二時間毎に半回転するというこつたもので、市の名物とされ参観人が絶えないとのことである。

また、セントポール市内にあるコモ公園の一角に1979年9月日本庭園が建設された。長崎市の松田正美氏は、この日本庭園の設計からたずさわり、過去4回にわたり、庭園の技術指導のためセントポール市を訪問している。この貢献により松田氏はセントポールの名誉市民となっている。この日本庭園は、日本文化のシンボルとして、また憩いの場としてセントポール市民に親しまれているそうである。1991年には日本庭園内に茶室が完成し、長崎市、長崎商工会議所、長崎日米協会、長崎ロータリークラブ、長崎北ロータリークラブから茶道具一式が贈呈された。また同茶室に対しては、1993年畳と長崎古版画が寄贈されている。

1981年11月3日には、姉妹都市提携25周年を記念して、セントポールロータリークラブ、セントポール・長崎姉妹都市委員会、セントポール・ミネアポリス日系米人青少年団の善意と協力により、



写真2

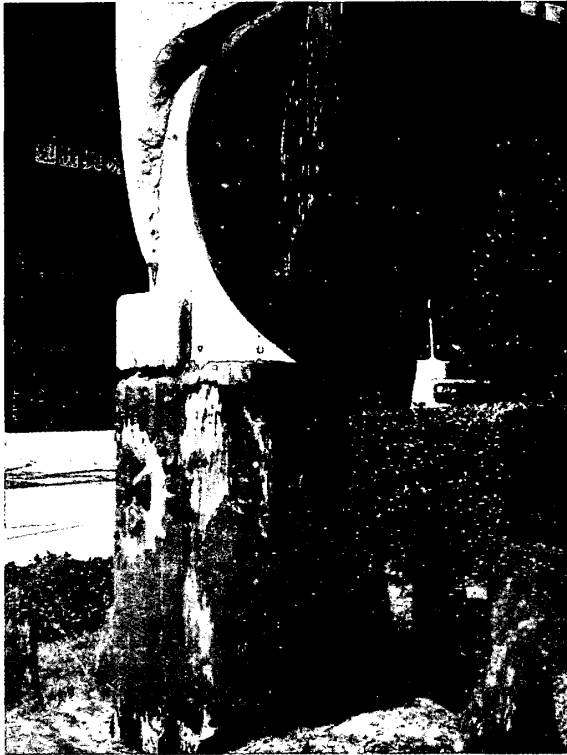


写真3

平和と友情のシンボルとしてトーテムポールが寄贈された（写真2）。このトーテムポールは、セントポールボーイスカウト第85隊によって製作されたものである。なお、このトーテムポールには様々な意味をもつ生物が描かれているが、それらは、雷鳥（神聖）、ビーバー（成功）、クマ（幸福）、ワシ（豊作）、大カラス（健康）、フクロウ（聡明）である。またこのトーテムポールは製作後約25年が経過しかなりの老朽化が進んでいる（写真3）。そのため2005年の姉妹都市提携50周年記念事業の一つで、同トーテムポールの再建が挙げられている。このトーテムポールが位置する通りはセントポール通りと名づけられたが、それについては後述する。

平和都市長崎にとって、もっとも意義深い芸術交流の一つは、姉妹都市セントポールからの平和モニュメント「地球星座」の贈呈であろう。長崎市は1977年12月12日、平和公園内に世界平和シンボルゾーンの建築を決め、国連加盟国や世界の主要都市に計画趣意書を発送、モニュメントの寄贈を呼びかけた<sup>7)</sup>。1980年以降、世界各地より平和と人類愛を象徴するモニュメントが寄贈された。それ



写真4

らは、姉妹都市であるポルトガルのポルト市からの「平和の記念碑」、チェコスロバキアからの「人生の喜び」、ブルガリアからの「Aコール」、東ドイツ（当時）からの「諸国民友好の像」、姉妹都市であるオランダのミデルブルフ市からの「未来の世代を守る像」、ソ連（当時）からの「平和」、中国からの「乙女の像」、ポーランドからの「生命と平和の花」、イタリアのピストイア市からの「人生への賛歌」、キューバからの「太陽と鶴」、姉妹都市であるブラジルのサントス市からの「平和の碑」であった。当然、原爆を投下した立場からアメリカ合衆国からのモニュメントの寄贈はなく、それは黒澤明監督の映画『八月の狂詩曲（ラブソディー）』（1988年）においても言及されている。1990年8月来崎したセントポールのジム・シャイベル市長が、平和公園でアメリカからの寄贈がないことを実感し、帰国後熱心に寄贈運動を進め、1992年10月10日に平和公園の一角にセントポールからの平和モニュメント「地球星座」（写真4）が寄贈された。この彫刻の製作者はポール・グランランド（Paul T. Granlund）氏である。彫刻の説明碑には、日本語と英語で次のように書かれている。

この像は、長崎市が日本で初めて姉妹都市提携を結んだセントポール市から「世界の平和シンボルゾーン」建設の趣旨に賛同し、両市の友好の証として送られた作品「地球星座」です。

七つの大陸を表す七人の人間で世界の平和と連帯を表しています。

#### CONSTELLATION EARTH

Nagasaki and St. Paul, Minnesota, United States of America, share Japan's oldest sister-city affiliation. This sculpture was donated to the "World Peace Symbol Zone" by the citizens of St. Paul as an expression of friendship.

The seven human figures represent the continents. The interdependence of the figures symbolizes global peace and solidarity.

また、平和都市長崎の関連では、直接姉妹都市セントポール市への寄贈ではないが、ミシシッピ川をはさんで共に栄えているためセントポール市の双子都市（ツイン・シティ）と呼ばれるミネアポリス市に1995年「平和の石」を寄贈している。これは元々ミネアポリス市が1984年5月、広島市に対し「平和の石」として被爆した石の寄贈を求め、それに答え、広島市から1985年5月に石が送られ、それはミネアポリス市内のロックガーデンの橋の一端に設置された。その橋の他の一端を飾るための石の寄贈を長崎市が求められ、長崎市では姉妹都市のセントポール市を通じ、「平和の石」を寄贈した。

その他の芸術交流として、1994年には「94全米姉妹都市青少年アートコンテスト」に中学生の作品「夢と自由と仲間たち」を出品している。1995年6月にはミネソタ大学図書館長カレン・ホイル氏、父君ロバート・ホイル氏、令嬢レベッカ・ホイル氏が来崎し、アメリカ児童文学挿絵原画展が開催された。また先述のように市立橋小学校とマグネット小の間では、絵画の交換が行なわれている。そして2003年11月には長崎・セントポール姉妹都市委員会主催で「こどもたちのフォト交流」が行われた。

音楽を通じた交流としては、1991年10月セントポ

ール市の姉妹都市の子ども達による「ソングス・オブ・ホープ」に長崎市より小学生2人と引率教員が派遣され、歌、キャンプ、ダンス等で交流をした例がある。また、1995年には長崎交響楽団がセントポールを訪問し、演奏会及びセントポール・シビック・オーケストラとの交歓演奏会を実施した。そしてこの両楽団は1996年に姉妹楽団提携になった。セントポール・シビック・オーケストラは1998年10月に来崎してコンサートを開いた。

#### スポーツ交流

1986年8月、セントポール市の少年野球チーム「ミネソタ・リトル・ゴーフアーズ」が来崎し、韓国の釜山市東成中学校チームも交えて、日・韓・米国際親善少年野球大会に参加した。また同チームは1988年にも再来崎し、再び国際交歓試合が行なわれた。

1990年シャイベル市長夫妻が来崎した際、同市長がマラソン愛好者であったことから、「セントポール通りをセントポール市長と走ろう」というイベントが開催され、市職員のマラソン愛好者との交流が始まった。1991年10月のツイン・シティズ・マラソン大会には、長崎市からのランナー18名も渡米して参加した。1992年のシャイベル市長再来崎の際にもマラソン交流が行われた。そして1995年3月にはクリス&バーバラ・ライマン夫妻が長崎平和マラソン参加のため長崎を訪問した。

2000年には、姉妹都市提携45周年を記念してテニス交流のため33名がセントポール市を訪問し、ホームステイをしながらテニス交流を行った。またバトントワリング交流として、長崎市の小中学生のバトン・チームがセントポール市を2度訪問したこともある。最近はスクエアダンス交流が盛んになってきており、姉妹都市提携50周年を迎える2005年には「オレンジアニバーサリー in 長崎」と題するスクエアダンスの行事が開催される。この行事にはセントポールからのスクエアダンスチームが参加し、全国各地のスクエアダンスチームが長崎に集い、姉妹都市提携50周年を祝う。

## 複線交流

長崎市の姉妹都市セントポール市は、先述のようにミシシッピ川をはさんで位置するミネアポリス市とツイン・シティと呼ばれており、そのミネアポリス市は大阪府の茨木市と姉妹都市提携を1980年に行なっている。交流先同士が「双子」のため長崎市と茨木市との、あるいは長崎市とミネアポリス市との接点もあり、先述の少年野球交流のミネソタ・リトル・ゴファーズは長崎を訪問する前に、茨木市に滞在し交歓試合を行なっている。また、芸術交流の項で述べたように、長崎市からミネアポリス市に対して「平和の石」を贈っている。

ただ、長崎市と茨木市の間ではあまり盛んな交流は見られないようである。両市は距離的にもやや離れているが、ツイン・シティの姉妹都市ということでより盛んな交流が行われたらおもしろいであろう。茨木市は、ちなみに国内では香川県小豆島の内海町と姉妹都市提携を結んでいる。アメリカのツイン・シティが取り持つ縁で、長崎市、セントポール市、茨木市、ミネアポリス市の4市が複線交流を行なえば、これまでと違った交流が期待できる。ちなみに2005年は長崎市とセントポール市との提携は50周年を迎えるが、茨木市とミネアポリス市との交流はちょうどその半分25周年を迎える。互いの記念行事を関連させるなどすれば、交流の新しい展開が期待できるかもしれない。

また、歴史的な国際都市長崎市には1955年に姉妹都市提携を行なったセントポール市の他にも、ブラジルのサントス、ポルトガルのポルト、オランダのミデルブルフ、中国の福州と4つの姉妹都市がある。

ブラジルのサンパウロ州サントスとは1972年に姉妹都市提携が行なわれた。サントスは長崎と同時期にポルトガル船の来航により貿易港として開かれたことと、1908年に日本からの第1回南米移住者団が長崎港から出航し、サントスに上陸したというつながりも持つ。サントス市からは1988年に平和モニュメントの寄贈やサンバチームの派遣があり、ペレ杯争奪少年サッカー大会が1974年から毎年1月に長崎で開催されている。また、1991年にはサント

ス市で長崎原爆展が開催されている。

ポルトガルのポルト市とは1978年に姉妹都市提携が行なわれた。この提携は鎖国時代、長崎の出島に向かったポルトガル船の母港であったというつながりによるものである。ポルトガル民謡のファドの演奏会が行なわれたり、ポルトガル船サグレス号の寄港などの交流があり、1980年には、平和モニュメントが寄贈された。

オランダのジールランド州ミデルブルフ市との姉妹都市提携は1978年に行なわれた。ポルト市と同様、出島に向かったオランダ船の母港という歴史的つながりを元に提携した。ミデルブルフ市からも1983年に平和モニュメントの寄贈があった。また、両市で協力して発展途上国支援に取り組んでいる。

中国福建省の福州との提携は1980年に行なわれた。他の自治体でも同様であるが、中国の都市との都市提携の場合は、どちらが姉でどちらが妹であるかとの優劣を認めるような「姉妹」都市という言い方は好まれず、「友好」都市とよぶことが多い。長崎市の交流の場合も、「友好都市」という言葉を使っている。この提携は、長崎華僑のほとんどの出身地であるというつながりが元となっている。水産農林技術交流、水道技術交流、アマチュア無線交流などが行われている。

計5つの姉妹（友好）都市を持つ長崎市であるが、これまでは、これらの姉妹都市を一堂に会しての、あるいは、これら長崎市との提携先同士の交流はほとんどなかった。2005年に長崎市・セントポール市の姉妹都市交流提携50年を記念して、長崎市主催で「世界市長平和会議」が考えられており、この席上にて5つの姉妹都市の代表が一堂に会する機会があるかもしれない。また、それぞれの交流で突出したものがないように、バランスをとって交流を進めているか伺ったが、バランスは特に考えていないとのことであった。アメリカのオレゴン州ポートランド市、ドイツのバイエルン州ミュンヘン市、中国の遼寧省瀋陽市、そしてロシア連邦ノボシビルスク州のノボシビルスク市と4つの提携先を持つ札幌市では、スポーツ交流を通じ、各都市の代表が一堂に会する場面を提供している<sup>8)</sup>。

長崎市では、姉妹（友好）都市以外にも、「市民友好都市」と呼ばれる都市が存在する。国際化の



中、限られた姉妹（友好）盟約先とだけ交流するという方法だけでなく、実践的な中身のある交流が求められる。長崎市では、現在の5つの姉妹（友好）都市との交流を発展継承させつつ、一方で本市の歴史、文化、人物、経済などの結びつきをもとに市民交流を中心とした姉妹（友好）都市以外の都市との幅広い都市間交流の発展を行なう必要がある。現在、歴史上に名を残す長崎ゆかりの人物と関係の深い都市（シーボルトの生誕地であるドイツ・ヴュルツブルグ市、グラバーゆかりの英国・アバディーン市、オペラ「蝶々夫人」の作者プッチーニの生誕地であるイタリア・ルッカ県、中国の革命家である孫文の銅像を寄与した中国・上海市など）との交流も続いている。さらに、大学間においては学術協定も結ばれており、今後も学術・文化を中心とした様々な交流の可能性があり。これらの都市とは姉妹（友好）都市提携などの形式にとらわれず、市民や民間交流団体が主体となって自由、気軽な交流を行う「市民交流都市」の連携を視野に入れた交流を行うこととなっている。この「市民友好都市」は交流がより深まる中で、市民や議会から姉妹（友好）都市連携への幅広い世論が喚起され、連携への環境が醸成されれば、相手都市の意向を踏まえ、姉妹（友好）都市への移行を検討するものとなっている。

「市民友好都市」の提携にあたっては、相互においてその意思があることを前提に、概ねつぎの要件を満たすものであることとなっている。

- ・広範な民間交流が行われており、市民も相手都市が身近に感じる雰囲気があること。
- ・継続的な交流が行われていること。
- ・本市の活性化に寄与するものであること。

また、「市民友好都市」交流の進め方としては、交流の主体は、市民や民間交流団体であり、行政の関わり方としては、つぎのとおりとなっている。

- ・1国1都市に限定せず、より多くの都市との交流を図る。
- ・民間交流が活発化するための環境整備と情報の収集・提供などの側面的支援を行う。
- ・「市民友好都市」であることを確認するような書面を都市間で取り交わす。
- ・周年的な公式訪問団の派遣や事業は行わない<sup>9)</sup>。

以上のことを読み解いてみると、現在5つの姉妹（友好）都市がある長崎市であるが、歴史的及び国際的に重要な存在ゆえに、さらに多くの都市との交流が求められている。ただ、その関連する全ての都市と即座に姉妹（友好）都市提携を行ったら、ただ姉妹（友好）都市の数が増えるのみで、それぞれの交流が相対的に薄いものになってしまうことも懸念される。そこで、行政側としては、これ以上率先して、姉妹（友好）都市提携を進めるつもりはないが、もし民間主体の交流が活発に進み、姉妹（友好）都市提携の気運が高まれば、姉妹都市への移行を検討するという基本方針が読んで取れる。また、ある国のある都市と既に姉妹（友好）都市関係にあると、その国の他の都市との交流が、心理的に避けられる傾向があるが、この「市民友好都市」は1国1都市の限定ではないため、同国内での複数の都市との積極的な交流も可能にする。したがってこの「市民友好都市」の考えは、長崎のように歴史的及び国際的に重要であり、多くの都市との交流が求められる都市にとっては、有効なものであると考えられる。また、市民交流が活発に行われ、気運が高まれば、「市民友好都市」から姉妹（友好）都市への移行があると規定されているので、長崎市の姉妹（友好）都市がさらに増える可能性もあり、今後の動向に注目したい。



写真 5

## その他の交流

長崎市とセントポール市との交流でユニークなものをさらに見ていきたい。アメリカ合衆国の都市では、基本的に全ての道路に名前がついているが、セントポール市では1962年1月、空港に通じる公道を「長崎道路」(Nagasaki Road)と命名している。長崎市では、やや遅くなったが、これに対して1975年、平野町の国際文化会館に通じる道路を「セントポール通り」(Saint Paul Street)と名づけている(写真5)。また、セントポール通り沿いの歩道にはセントポール市の花クロッカスと長崎市の花あじさいをあしらったパネルがはめ込まれている

(写真6,7)。また街路樹が植わっている土の部分や側溝のカバーにもセントポールの花クロッカスの絵があしらわれている(写真8,9)。また、セントポール通り沿い及びその周辺には、「セントポール」の名を冠した建物等が見られ、ホテルセントポール、セントポール歯科、月極駐車場セントポールパーキング、ローソン・セントポール通店、St. Paul Prospectという名のオフィスビル、セントポール女子学生下宿などがある。ちなみに長崎市内には「サントス通り」と「福建通り」と名づけられた道路もある。

長崎市の放送局NBC長崎放送とセントポール市のKSTPラジオ・テレビジョン局は姉妹局提携を

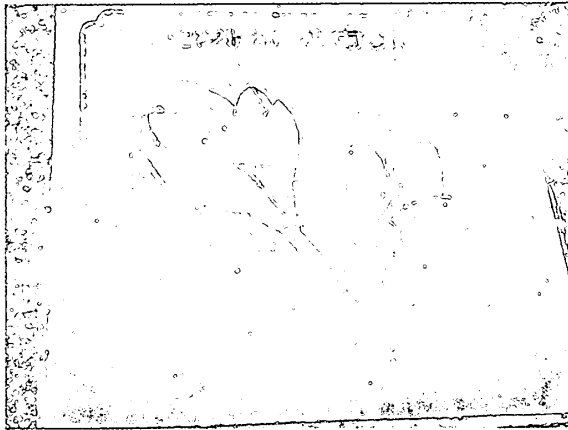


写真6

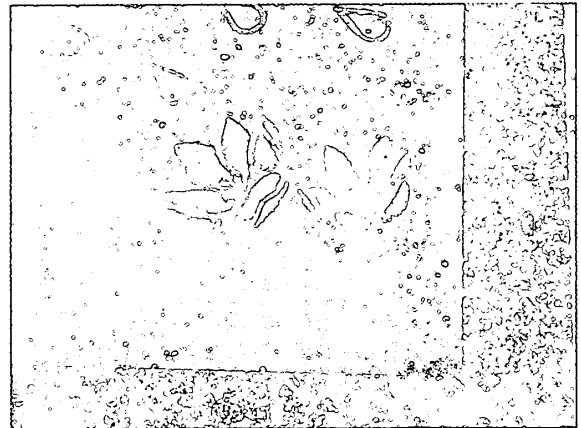


写真8

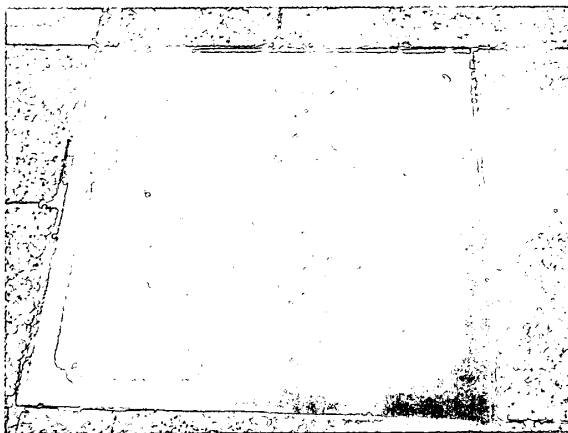


写真7

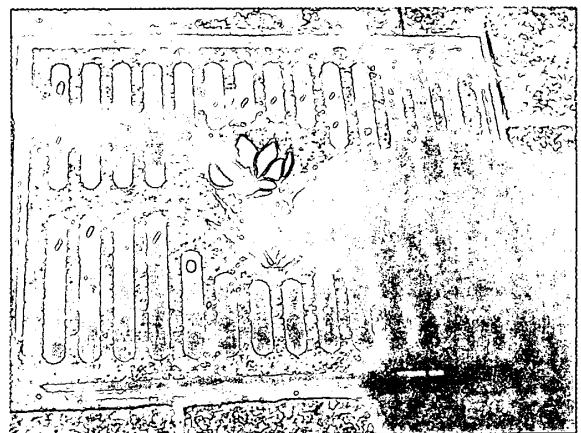


写真9

1976年9月20日に行っている。放送局の姉妹提携はとてもユニークであり、両局は以降、相互訪問や共同番組制作を行っている。またNBCではセントポール市からの留学生との座談会やインタビューを放映している。両局の姉妹局宣言(Declaration of Sister Station Affiliation)は、日本語及び英語で次のような内容である。

NBC長崎放送(日本国・長崎市)とKSTPラジオ・テレビジョン局(アメリカ合衆国・ミネソタ州・セントポール市)は、放送を通じて相互に文化の交流を図り、両局の友好を深めると共に、日米両国並びに、長崎市とセントポール市の親善に寄与することを確認して、ここに両局が姉妹局として提携することを宣言する。

昭和51年9月20日

長崎市上町1番35号

長崎放送株式会社

代表取締役社長 鈴木従道(サイン)

The stations of Nagasaki Broadcasting Co., Ltd.(NBC), Nagasaki, Japan and the broadcast station of KSTP Radio and Television, St. Paul, Minnesota, U.S.A. hereby declare themselves to be affiliated as Sister Station for the purpose of promoting and strengthening(sic) the bonds of friendship and understanding between our two great countries as well as between Nagasaki and St. Paul, Minnesota. Through the exchange of programs, personal and cordiality, such as international Sister Station affiliation will create and further cultural interchange.

September 20, 1976

Stanley S Hubbard (sign)

President & General Manager

Hubbard Broadcasting Inc.

St. Paul, Minnesota

U.S.A.

放送局の姉妹提携は、市民に姉妹都市交流について報道する上では極めて有意義なことである。また、NBCの報道ライブラリーには長崎市とセントポール市との姉妹都市交流に関する貴重な映像

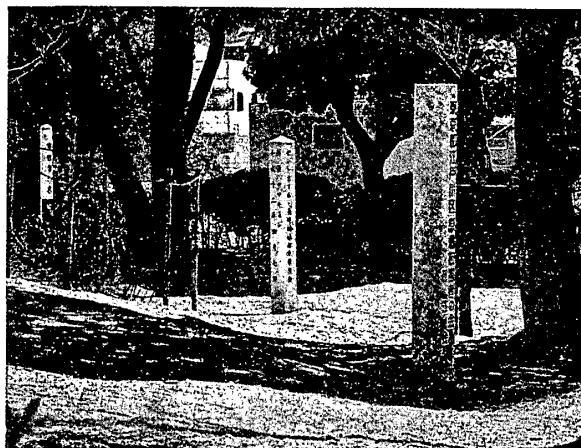


写真10

が保存されており、同姉妹都市交流の貴重な資料となっている。ちなみにNBCでは中国の放送局である上海東方電視台とも業務提携調印を行っている。

姉妹都市提携45周年となった2000年には、長崎・セントポール姉妹都市委員会が主催して「長崎・セントポール姉妹都市交流45周年記念公開シンポジウム」が開催された。その第1部は「長崎・セントポール姉妹都市交流の45年」、第2部は「21世紀の国際交流：私のやりたいこと」と題して行われた。これは45周年を祝うという意味ばかりではなく、それまで市民のボランティアが中心となって進められてきたセントポール市側と対照的に、行政が中心となって進められてきた長崎市側でも、市民がイニシアティブをとって交流を進めていくことが確認されたという意味でも、有意義なことであった。また、45周年に合わせて平和公園で記念植樹式が開催され、「平和の泉」の南側にヤマモミジが植えられた(写真10)。

#### 今後の交流

1955年に行われた長崎市とセントポール市の姉妹都市提携が、2005年で記念すべき50周年を迎える。50周年記念事業及び関連事業としては、現在のところ次のような案がある。

- ・被爆クス植樹(コモ公園)

- ・ こども写真展2005
- ・ 青少年サマーステイプログラム
- ・ シリーズ「50年の歴史に学ぶ」講話
- ・ 市民訪問団派遣（8月）
- ・ 市民訪問団受け入れ（10月）
- ・ スクエアダンス交流受け入れ（10月8日・9日）
- ・ トーテムポール再建
- ・ テニスを通じた家庭交流（8月）
- ・ 音楽交流（8月セントポール公演、10月長崎公演）
- ・ ガールスカウト交流（受け入れ）
- ・ チェス交流（インターネット対局）
- ・ プレシンポジウム（3月）
- ・ 長崎原爆60周年参加（セントポールより）
- ・ 50周年記念シンポジウム（12月7日頃）

これらの項目を見れば、50周年を迎える最初の日米姉妹都市交流が多岐に渡って進んでいることがよくわかる。筆者もこの研究を機に入会させていただいた長崎・セントポール姉妹都市委員会の一員として、各種行事に可能な限り参加したいと考えているし、微力ながらも協力していきたいと考えている。50年を超え、さらに新たな局面が期待されるが、筆者は、セントポール出身の有名人物であり、日本でも名の知れた二人の人物に焦点を当てて新たな交流を始めることができるのではないかと考えている。それらの人物とは、『ピーナッツ』を描いた漫画家チャールズ・シュルツと『グレート・ギャツビー』などの作品を書いた小説家F・スコット・フィッツジェラルドである。これらの人物にちなんで「漫画交流」や「文学交流」を進めていけば、新たな市民層が姉妹都市交流に関わることにものなると考えられる。

## まとめ

以上、長崎市とセントポール市との姉妹都市交流についてまとめてみたが、交流がとても多岐にそして長期間に渡っている上、長崎市の住民ではないということもあり不完全な報告となってしまったことは免れない。短期ではあるが、十分なインタビュー、訪問及び資料収集を行ったつもりであるが、あらためて文章にしたためてみると、さらに取材が必要なことが多々明らかになった。そ

れだけこの交流の歴史の深さを感じたわけである。今後も、日米姉妹都市交流のパイオニアとして、この交流には注目して行きたいと考えている。また、今回の調査研究は長崎市での取材に基づいているが、機会があれば将来セントポール市での取材も行い、さらに深い調査研究としていきたい。

## 謝辞

本研究に対して、新見公立短期大学の平成15年度特別研究費の配分をいただいたことをここに記して感謝したい。また、筆者の2004年3月11日から15日にかけての長崎市での調査及び資料収集、そして訪問前後、電子メール、手紙及び電話で様々なご協力をいただいた、長崎市観光部国際課副主幹の松尾緑氏、長崎市役所元国際課長の山下和俊氏、長崎・セントポール姉妹都市委員会会長の宮西隆幸氏、NBC長崎放送報道局長の北山信博氏、及び同報道局ライブラリー部の堀田武弘氏、Chris' Pizza Americana経営者でセントポール市出身のChris Tierney氏にも深く感謝の意を表したい。

註

- 1) 財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) ウェブサイト <http://www.clair.or.jp/cgi-bin/simai/j/00.cgi> (2004年9月22日)。
- 2) 『長崎市の姉妹都市交流30年の歩み』長崎市, 1985, p.9.
- 3) このあたりの記述は、長崎市役所の元国際課長である山下和俊氏から筆者への私信電子メール (2004年3月13日) を参考にした。また、その他の部分の記述にも山下氏の電子メールの内容は大いに参考になったことをここに記しておく。
- 4) 『長崎=セントポール 都市提携10年のあゆみ』長崎市都市提携委員会, 1965, p.1.
- 5) マグネット小学校とは、アメリカ各地にある、特別なカリキュラムなどにより、通常の学区を越えて、児童を集める公立学校のこと。
- 6) 『Sister City 都市提携20年のあゆみ』長崎市都市提携委員会, 1976, p.18.
- 7) 長崎の原爆遺構を記録する会編『原爆遺構 長崎の記憶』福岡：海鳥社, 1993, p. 219.
- 8) 札幌市の姉妹都市交流については、『さっぽろ文庫85 姉妹都市』(札幌市教育委員会編、札幌：北海道新聞社, 1998) に詳しい。
- 9) 長崎市の都市間交流の方針(1998年2月19日決定) <http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/kokusai/simai/housin.html> (2004年2月4日)

### Summary

The sister city relationship between Nagasaki City, Japan and Saint Paul City, Minnesota, U.S.A. started in 1955. It is the first city affiliation between a Japanese city and a U.S. city, and it has the 50th anniversary in 2005. The author reports on the contents of the intermunicipal exchanges for the 50 years after interviewing key persons, visiting related places and collecting materials in Nagasaki. The author also touches upon future perspectives of the exchange.